

# 水 泥 新 聞

第三四号  
2017年(平成29年)10月5日



編集

フジクリーン工業株式会社

〒四六四・八六二二

愛知県名古屋市中種区今池

四丁目1番4号

TEL

〇五二・七三三・〇三二五

## 和歌山県が県所有の 単独浄化槽を すべて合併浄化槽へ



和歌山観光PR  
シンボルキャラクター  
わかぼん



▲和歌山県の南部高校 龍神分校寄宿舎に施工された、フジクリーンの浄化槽(CEN型 35人槽)

平成26年、国土交通省、環境省、農林水産省の3省が発表した「都道府県構想策定マニュアル」(以下、マニュアル)。それを受け和歌山県は、平成28～32年の5年間で、県所有の単独浄化槽をすべて合併浄化槽へ転換(又は下水道へ接続)する取り組みを始めた。

### 今もなお公共施設で使用される単独浄化槽

トイレの水洗化を図る簡易的な排水処理装置として、全国に普及した単独浄化槽。しかし一方で、生活雑排水はそのまま処理されずに、川や海に垂れ流し……。時代の変化とともに負の遺産となった単独浄化槽は、平成12年に改正された浄化槽法により合併浄化槽への転換が義務付けられ

た。しかし、全国の地方公共団体が所有する単独浄化槽は、約4万6千基(平成28年3月現在)とされている。

### 和歌山県では 単独浄化槽を転換する 取り組みをスタート

3省合同で発表されたマニュアルには、平成26年からの10年間で汚水処理の整備を概ね完了させることが目指さ

れている。この目標を達成するためには、地方公共団体の真剣な取り組みが緊要だ。

現在、県所有の施設で187基(平成26年3月現在)の単独浄化槽が使われている和歌山県では、平成32年度までにすべてを合併浄化槽に転換(又は下水道へ接続)すると発表。すでに、平成28年度には26施設を転換、平成29年度には18施設の転換が予定されている。

### 県が範を示すことで 地域住民の 意識を改革

汚水処理の整備スピードをアップさせるためには、和歌山県のように県や自治体が率先して行動を起こすことが大切となる。さらに同県では、各市町村に対して合併浄化槽への転換費用だけでなく、転換に際して必要となる単独浄化槽の撤去費用も補助の対象にするなど、早期転換の実現に向けて、大きな一歩を踏み出している。



里川ホタル

### コラム

#### 県をあげてリサイクル製品の普及を促進

和歌山県では、廃棄物の減量化やリサイクルの促進に役立つ製品を「和歌山県認定リサイクル製品」として認定。県として優先的に購入し、リサイクル製品の普及を図る。濾材や担体など、さまざまな部品に再生材を使用したフジクリーンの浄化槽も「和歌山県認定リサイクル製品」に選ばれている。



▲浄化槽の部品に使用する再生材

#### 公設単独浄化槽 転換の必要性

◎単独浄化槽の転換は努力義務と、**浄化槽法に記載されている。**

◎マニュアルに定められた**汚水処理整備の早期概成**を目指すため。

◎市町村設置型を実施している自治体には補助金制度を設けるなど、**国もバックアップ。**

◎生活雑排水を垂れ流しにする単独浄化槽を合併浄化槽へ転換しなければ、**水辺環境は改善されない。**

◎**国土強靱化**を図るためには、老朽化した単独浄化槽の転換が必須。災害時に防災拠点となる建物は、早急に転換を。

# 和歌山県が設定した 汚水処理人口普及率 80%

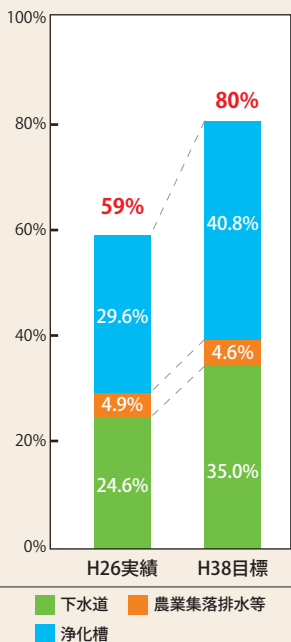
## 実現には、浄化槽が 必要不可欠!

### ワースト2の 汚名返上のため 汚水処理計画を 見直し

単独浄化槽の転換を推進する和歌山県だが、都道府県別に見た汚水処理人口普及率は全国ワースト2(平成28年3月現在)と、大きく遅れをとっている。その理由として、急峻な地形により下水道を整備することの難しさがあげられる。

さらに近年、人口減少や高齢化が本格的に進行してきたため、汚水処理施設の整備に関する計画の見直しを実施。平成29年3月、新たに「和歌山県全域汚水適正処理構想」を発表した。そこでは、平成38年度末までに汚水処理人口普及率80%達成を目標に設定。これまで116か所としてきた集合処理区数をもとに104か所に変更し、削減した分は合併浄化槽の普及を促進するなど、早期実現を目指す。

汚水処理人口普及率の  
H26実績とH38目標



※平成28年度「和歌山県全域汚水適正処理構想」より

### コラム 「水の国、わかやま。」 実施中

和歌山県・和歌山県観光連盟では、観光キャンペーン「水の国、わかやま。」(平成28年7月21日～平成30年3月31日)を実施中。ガイドブックや公式サイト(<https://www.wakayama-kanko.or.jp/mizunokuni/>)では、清らかな水にまつわる観光スポットや文化の魅力を発信。雄大な自然に育まれた水の素晴らしさを通して、誘客の促進を図っている。

同キャンペーンに先駆けて実施されたのが、「おもてなしトイレ大作戦」。「おもてなしの基本は、きれいなトイレ」との思いから、観光地の公衆トイレの洋式化や温水洗浄便座を導入。総事業費約30億円をかけて、合計661か所(平成28年度末時点)のトイレを整備した。その結果、公衆トイレが地域自慢の資源となり、観光客からの評判も上々だ。

### 知事メッセージ 「県民の皆様へ」 おもてなしトイレと汚水処理



和歌山県知事  
仁坂 吉伸

和歌山県に来て下さる観光客の数は、外国人も含めて、全国平均よりも大きく伸びています。ありがたいことです。こういう流れをもっと広範囲に及ぼし、加速させるために、和歌山県では新たな観光のキャンペーンとして、「水の国、わかやま。」を展開しています。和歌山県は地形にも恵まれて、きれいな川や美しい海がいっぱいだから、観光客にこういう川や海で大いに楽しんでもらおうという考えです。

もちろん来られた方に快適な思いをしていただく必要がありますので、とりわけ公衆系のトイレを美しくしようとして「おもてなしトイレ大作戦」を実施中です。ここ数年の努力の結果、ほとんどのトイレが温水洗浄便座付きの洋式トイレを備えたピカピカのものになりました。あの週刊文春で絶賛をもらったのです。

こういう自慢すべきものの反対に、和歌山県の汚水処理人口普及率はあんまり芳しくありません。特に名を秘す他県に次ぎ下から二番目の水準です。和歌山県ではほとんどの地域で人口密度が低く、地形が狭く急峻ですから下水が整備しにくいので、合併処理浄化槽にも活躍してもらわないといけません。そこで、その普及のための補助金は、結構手厚く用意し、かつトイレを早く直しましょうと熱心にキャンペーンを張っているのですが、なかなか進みません。このままでは「水の国、わかやま。」のイメージダウンになります。皆さん是非この際、ご家庭やお店のトイレを下水につないだり、合併処理浄化槽を入れたりしましょう。



▲本州最南端にある清流、古座川では、カヌー体験が人気。川底まで見える透明度の高い川では、まるで宙に浮かんでいるかのような体験ができる。



▲和歌山県広報紙「県民の友 No.940 平成28年12月号」より抜粋

「おもてなしトイレ大作戦」のように、この面でも、さすが和歌山は清潔で、よくやると言われるように皆で力を合わせて頑張りましょう。